

目的 和服の着装は、従来のように家庭での教育が十分行なわれない現状であることから、着付教室その他での学習が増加している。一方高等学校学習指導要領においては、着装技術の重要性が述べられており、中学でも着装を含めた民族服としての常識を理解させる必要性が述べられている。そこで、大学・短期大学の和裁教育の中で、着装指導が現在どのようになされているのか実状を調査し、その結果をもとにこれからの時代における和裁教育を検討したいと考えた。

方法 実状調査の対象校は、国公立および、私立の大学・短期大学の和裁開講校162校に依頼して、アンケート調査をおこなった。調査内容は、(1) 着装学習を取り入れているか否か (2) 着装学習の方法 (3) 着装学習の内容 (4) 着装学習を取り入れていない理由 (5) 和裁の履修単位数 (6) 着装学習に使用する時間数等である。調査は、昭和55年4月10日～5月20日におこなった。

結果 依頼数162校に対して回収率は71%、115であった。(1)については、58の学校について実施されていることが判明した。実施していない学校の73%が時間数の不足という理由であった。必要性を認めないところは2%で、全体としては98%の学校が否定的でない事が判明した。実施している学校の平均的状況は、実習作品の大裁女物単衣長着の完成時に、半巾帯又は名古屋帯の結び方を含めて約3時間を使用し、実技示範をおこなって、実習させているが、時間数の不足を感じている、というのが実状といえる。